

## Ⅱ ヒアリング調査結果（業種別）

### 1 製造業

#### （1）一般機械器具

- 【**業界の動向**】県内の一般機械の生産指数（埼玉県鉱工業指数月報による季節調整済指数。以下同じ。）は、直近の平成28年9月で、はん用機械工業が120.3（前月比1.0%増加、前年同月比5.8%減少）、生産用機械工業が95.4（前月比4.2%減少、前年同月比28.2%増加）、業務用機械工業が117.8（前月比30.3%減少、前年同月比8.0%減少）であった。
- 【**景況感**】回答企業全てが「普通である」と回答し、「業界全体では何とも言えないが自社状況は悪くない」、「前期よりは前向きになっている」、「景況感はやっと普通に戻った」との声が聞かれた。
- 【**売上げ**】「予算比で5%程度の増収基調」、「受注高は1割程度増加している」など、前年同期比もしくは前期比で「増えた」と全ての企業が回答し、来期の見通しも「増える」との回答であった。
- 【**品目別の状況**】「遊技類」や「自動車関連」「食料品」「医療」など、受注が「好調」とする品目が多く聞かれたが、「中国で製造したものを日系企業に売るだけではダメ」、「中国で製造したものは中国国内で消費するようになってきている」と、今後の課題として、消費地としての「中国」に対する対策に必要性を感じている声が複数聞かれた。
- 【**受注単価**】「特定分野の薄利多売の受注のため、受注単価としては下がっている」との声もあったが、「最近値引きの依頼が少なくなっている」「製品価格は特に変わっていない」など「ほとんど変わらない」と回答した企業が多かった。
- 【**原材料価格**】多くの企業が「ほとんど変わらない」と回答したが、一部の企業からは「鋼材類の値下げがあった」と「下がった」とする声も聞かれた。来期以降については、「メーカーが値上げをしてくる可能性がある」と、今後の値上げを懸念する声が聞かれた。
- 【**採算性**】「受注が回復し、採算は前期より大幅に改善している」「受注は好調であるが、償却や開発費の負担で採算は前年同水準程度」、「売上高が減少しており、収益は下がっている」など、回答に大きくバラつきが見られた。
- 【**設備投資**】今期（10～12月）は、設備投資を行ったとする回答が多く、来期（1～3月）についても全ての企業が「実施する」もしくは「検討している」と回答した。
- 【**今後の見通し**】「為替動向が不透明であり先行きが読みづらい」、「今後は海外、特にアメリカの状況次第」など、多くの企業で「どちらともいえない」との回答となったが、「今後は良い方向に向かってくれそう。2～3年程度は良い流れが続いてくれると良い」と、「良い方向に向かう」とする回答もあった。

#### （2）輸送用機械器具

- 【**業界の動向**】県内の輸送用機械の生産指数は、直近の平成28年9月に95.2となり、前月比で18.9%増加、前年同月比でも6.5%増加となった。
- 【**景況感**】「景気全体は良くなっていないが、自動車関係の引き合いは出てきている」、「景気は横ばいで変わらない」、「自動車部品メーカーとの取引は数量が確保できて利益がついてこない厳しい状況である」、「トラック部品は国内需要は好調だが、新興国などの海外輸出向けの生産が減少したままの状況が続いている」と、「好況である」との声は聞かれなかった。
- 【**売上げ**】「ここ1～2か月は増産で売上げが微増、3月までは堅調に推移する」、「追加生産の依頼が複数あり、売上げの実感として11月から変化がみられる」と増えたとの一方で、「新興国向けのトラック需要が弱いままになっている」、「主要取引先の海外向けの部品の取引数量が減少」と、様々な状況であった。
- 【**受注単価**】「自動車部品メーカーからのコスト削減要請はなかった」との一方で、「10月からは全体的に1%程度引下げ」、「コスト削減は従前よりも無理な要請をしてくなくなったが単価は下がった」、「コスト削減要請に応えられなければ調達先が海外へ移っていしまう」と、受注単価の引下げの声が複数聞かれた。
- 【**原材料価格**】複数の企業が「原材料は取引先からの支給（有償又は無償）で、影響はない」とのことだった。また、「自社で原材料を調達するステンレス等の原材料価格が上昇、中国での材料価格の上昇が影響している」、「原材料は有償支給であるものの、仕入先からはステンレス価格が年明けから上がると聞いている」との声があった。
- 【**採算性**】「売上げ構成で利益率の高い製品が増えて改善傾向」と、「良くなった」との声があった一方で、「売上げの減少と受注単価値下げで採算性は厳しい状況」、「今後の受注のための金型試作や設備投資、原材料価格の状況で収益が悪化」との声が聞かれた。

**【設備投資】**「県の補助金を活用して工場の水銀灯照明をLED照明に更新」、「工場建物の改築や生産設備の増設」、「新規取引のため最新の生産設備を導入」と複数の企業から実施したとの声があった。今後についても「新たな検査装置の導入に国の補助金を活用したい」、「工作機械の更新をしたい」などの声が複数聞かれた。

**【今後の見通し】**「電気自動車の開発によって長期的にはガソリン燃料の関連部品の生産が減少していく」、「4月以降は自動車メーカーの生産計画が下振れして、状況が厳しくなりそう」との声があった。また、「米国の経済政策次第では景気が今よりも良くなるかもしれないという期待を持っている」、「米国の経済政策が自動車産業にどのような影響を与えるのかを不安視している」など、今後の米国の動向が世界経済に与える影響に注目しているとの声があった。

### (3) 電気機械器具

**【業界の動向】**県内の電気機械の生産指数は、直近の平成28年9月に104.7となり、前月比で1.2%の減少、前年同月比では16.3%の増加となった。

**【景況感】**「業界は様々な仕事があるので悪くない状態であるが、当社は厳しい状態」、「大企業と中小企業との格差が広がってきている」などと、多くの企業が「不況である」と回答した。また、「今の景気は普通であるが、停滞感がある」との声も聞かれた。

**【売上げ】**「計画になかった仕事、取引先の都合で増えた」と「増えた」と回答した企業や、「前期から引き続き受注している仕事は微増しているが、新たな仕事は未だ評価段階にあるので、売上げに貢献してきていない」と「ほとんど変わらない」と回答した企業など、様々であった。また、「スマートフォン関係の仕事については、トレンドが中国にシフトしている」、「労働集約型の仕事は、海外に人件費の面で太刀打ちできない」などの声も聞かれた。

**【受注単価】**多くの企業が、「ほとんど変わらない」と回答した。しかし、「医療関係の値下げが目立つ」と、「下がった」と回答した企業もあった。

**【人件費】**「従業員を増員した」、「パートの時給を上げたのに加え、募集（採用）費がより増えてきている」と、多くの企業が「増えた」と回答した。

**【原材料価格】**原材料が取引先から無償支給される企業、自社調達の企業ともに、全ての企業が「ほとんど変わらない」と回答した。

**【採算性】**「採算の合わない仕事を断り始めた」ことにより「良くなった」と回答した企業、「今まで主な取引先だった企業との取引が減った」と、「悪くなった」と回答した企業など、様々であった。

**【設備投資】**「人員増や倉庫の内装変えに伴う備品の購入」を行ったとの声があったが、多くの企業が、「実施しなかった」と回答した。また、来期についても全ての企業が「実施しない」と回答した。

**【今後の見通し】**「先行きについては不透明である」、「米国の経済政策が不透明であり、判断材料がない状態」などと、多く企業が「どちらともいえない」と回答した。また、「業界全体の売上げは落ちないだろうが、海外企業との価格競争が厳しいので、当社としてはあまり良くないだろう」との声も聞かれた。

### (4) 金属製品

**【業界の動向】**県内の金属製品の生産指数は、直近の平成28年9月に74.6となり、前月比で0.9%増加、前年同月比では4.0%減少している。

**【景況感】**回答企業全てが「普通である」と回答したが、「試作の話は多いが、製品化がされない」、「景況感は良くなってきている」、「良いところと悪いところがはっきりしている」と、内容には差異がみられた。

**【売上げ】**「悪かった昨年の同時期に比べて1割程度増加している」と「増えた」との回答もあったが、「大きく減る感じはないが、大きく増えもしない」、「売上は前年同程度。メーカーもコスト意識が高くなっている」と、「ほとんど変わらない」との回答が多かった。

**【品目別の状況】**「好調」との話が多かったのは「建築関係」、「分析機器類」、「医療関係」、「物流関係」など。また「自動車」に関しても、「下がり気味だが一定量を確保できている」との声が聞かれたが、「業務用機械」に関しては「受注が良くない」との声が聞かれた。

**【受注単価】**「適正な単価は維持している」、「値下げの話はあまり来なくなっている」などの声が聞かれ、回答企業全てが「ほとんど変わらない」と回答したが、「メーカーからのコストダウンの要請が多くなっている」と、今後の値下げ圧力を懸念する声も聞かれた。

**【原材料価格】**「鋼材価格の値上がりを懸念していたが、価格は上昇していない」、「相場物が少し上がっているが、気になるほどではない」と多くの企業が「ほとんど変わらない」と回答したが、「鋼板類が少し値上がりしており、ステンレスも上がっている」と、「上がった」とする回答もあった。

**【採算性】**「受注回復と内製化などにより、採算性はよくなっている」と「良くなった」との回答もあったが、「採算は昨年並みを維持している程度」など、「ほとんど変わらない」という回答が多かった。

**【設備投資】**今年度前半で既に設備投資を行ったとする企業が多く、10～12月期に設備投資をしたとする回答は少なかったが、来期（1～3月期）については、生産の効率化や内製化に伴う設備投資を予定もしくは検討しているとの回答が多かった。

**【今後の見通し】**「どちらともいえない」との回答が多かったが、「自社の景況は良くなっているが、仕事が転がっているわけではない」、「先行きが不安であり、積極的な設備投資ができない」との声が聞かれ、「今の景況では企業はどんどん引き締め走る」と、「悪い方向に向かう」との回答もあった。

## (5) プラスチック製品

**【業界の動向】**県内のプラスチック製品の生産指数は、直近の平成28年9月に79.4となり、前月比で0.8%増加、前年同月比では0.4%減少となっている。

**【景況感】**「部品の軽量化のためプラスチックの需要が増えている」、「需要に対応するための技術を持つ人材の育成が業界全体の課題である」など、「好況である」との回答だった。

**【売上げ】**「会社として新規の掘り起こしに力を入れていることが好調な受注につながっている」など、いずれの企業からも「増えた」との声が聞かれた。

**【受注単価】**価格については各社とも「ほとんど変わらない」という回答だった。「営業の質を上げて採算の取れない受注を受けないようにしている」との声が聞かれた。

**【人件費】**「製造の体制強化のため増員した」、「生産増のための残業代が増加した」との声があり、人件費は「増えた」との回答だった。

**【諸経費】**「人材の定着を図るため従業員の福利厚生を充実している」、「契約変更により電気代が下がった」など、回答が分かれた。

**【採算性】**「新しい汎用機械の導入により作業効率が上がった」、「自社の強み弱みが認識できるようになった」など「良くなった」との回答が多かった。

**【設備投資】**「作業の効率化のための機械設備を購入した」など、「実施した」と回答した企業が複数あった。

**【今後の見通し】**「医療機器の部品は品質基準が厳しいので国内調達が今後も続くと予想される」、「生産計画を順調に実施するため人員を増やして生産体制を整えたり生産工程の効率化を図ったりしている」など、「良い方向に向かう」との声が聞かれた。

## (6) 食料品製造

**【業界の動向】**県内の食料品の生産指数は、直近の平成28年9月に96.5となり、前月比で6.2%減少、前年同月比でも4.1%減少となった。

**【景況感】**「景気は悪くなっていないが良くなってもいない横ばいで、普通」、「景気全体は横ばいで、食品製造業はまずまずの状況」、「景気は曇り空でたまに晴れ間が見えるときもあるが低空飛行で横ばい、不況」と、「好況である」との声はなかった。

**【売上げ】**「売上げは季節商品が堅調で、前年比増加」、「売上げは微増で堅調、特にコンビニエンスストア向けが好調」、「主要取引先の受注品目が増え、前年比増加」と、「減った」との声はなかった。

**【製品単価】**いずれの企業も「ほとんど変わらない」と大幅な価格見直しはないが、「一部の外食産業向けは低価格競争を背景として、商品変更に合わせて受注価格を引き下げた」との声が聞かれた。

**【人件費】**「最低賃金引上げを背景にパート従業員の時給引上げにより人件費増加」、「社会保険の適用拡大により人件費増加」と、「減った」との声はなかった。また、「生産繁忙期の年末に向けたアルバイト確保のため勤務シフトを工夫する」と、人手不足の対応策を検討しているとの声があった。

【採算性】複数の企業が「ほとんど変わらない」との一方で、「売上増加と主要な原材料価格の低下により採算改善」との声があった。また、「原材料のうち天候不順の影響で野菜の価格が高騰している」、「原材料価格の低下は収益にプラスの影響があるが、製品の付加価値を上げていくことが課題」との声があった。

【設備投資】「生産機械のメンテナンスのための設備投資」と維持更新のほかに、「国の補助金を活用して自動包装機械の新規導入」など、いずれの企業も設備投資を実施した。また、長期的な課題として「工場の建物耐震化や老朽化機械の更新を検討」との声があった。

【今後の見通し】「原材料価格に影響を与える為替動向が気になる」など、先行きはどちらとも言えないとの声が複数聞かれ、「悪い方向に向かう」との声はなかった。

## (7) 鋳鉄铸件 (川口)

【業界の動向】川口铸件工業協同組合によると、組合員数は現在124社だが、隣地のマンション建設、後継者問題、業績不振により来年3月末に4社減の予定とのことであった。

【景況感】「不況である」と回答した企業が多かった。

【売上げ】川口铸件工業協同組合が9月30日から10月7日に実施した「第23弾景況動向アンケート」によると、9月の受注が前年同月に比べ「増加した」と回答した企業の比率は回答企業の18.4%で、6月に実施した前回調査の11.9%から6.5ポイント上昇した。企業によっては、「建機関係の仕事が入ったが、今後これが継続するかは現時点では不明」、「10～12月は前年同期の売上げにわずかに届かない」などの声も聞かれた。

【受注単価】「ほとんど変わらない」と回答した企業が多かった。また、「昨年9月の値上げが浸透してきた」との声も聞かれた。

【採算性】「ほとんど変わらない」、「良くなった」と回答は様々であった。

【設備投資】新興国にある自社工場に設備投資を行った企業があった。

【今後の見通し】「どちらともいえない」、「良い方向に向かう」と回答は様々であった。

## (8) 印刷業

【業界の動向】県内の印刷業の生産指数は、直近の平成28年9月は75.4となり前月比2.5%減少、前年同月比22.8%減少となっている。

【景況感】「手放しに好況だとは言えないが、悪いわけではない」など、多くの企業が「普通である」と回答したが、「格差が広がっていると感じる」との声が聞かれ、「顧客の状況が良くない」と、「不況である」との回答もあった。

【売上げ】「全体で昨年と同程度の受注が取れている」と、「ほとんど変わらない」との回答もあったが、「受注の「数」は来ているが、ロットが減少している」、「受注の種類は多いが、数量が来ない」との声が聞かれ、「減った」とする回答が多かった。

【受注単価】「単価の安い仕事は受けない」、「納期の厳しい発注が多く、値下げの話は来ない」と、「ほとんど変わらない」との回答が多かったが、「競合があり、単価は少し下がっている」と「下がった」との回答もあった。

【原材料価格】「原材料の値段は落ち着いている」、「メーカーから価格の上げ下げの話は来ない」と、「ほとんど変わらない」と回答した企業が多かったが、「調達先の見直しにより、材料代の削減ができています」と、「下がった」との回答もあった。

【採算性】「概ね採算は維持できている」、「好調だった昨年並に採算は取れている」と、現状維持をしているとの回答が多かったが、「ロットが減っているため、粗利も減少している」と、「悪くなった」との回答もあった。

【設備投資】生産設備関係や空調、照明など、10～12月期に設備投資を「実施した」と全ての企業が回答し、来期(1～3月期)に関しても、設備投資の実施を予定しているとの意見が多かった。

【今後の見通し】「良いネタが無く、厳しい」、「先が読みづらく不透明であり、不安に思う」、「今後は受注単価の動向に左右される」など、前期(7～9月期)に引き続き、慎重な見直しをしている声が多く聞かれた。

## 2 小売業

### (1) 百貨店

【**業界の動向**】商業動態統計によると、県内百貨店の平成28年9月の販売額は、既存店ベースで前年同月比3.0%の減少となり、2か月連続で前年同月を下回った。

【**景況感**】「前年を維持する程度までは戻ってきた」と、「普通である」との回答もあったが、「悪いとは言いたくないが、良くはない。世間的に明るいニュースがない」、「景況感はやや不況だと思う」など、「不況である」とする回答が多かった。

【**売上げ**】「メーカーが生産量を落としており、需要は減っていないが売るものが足りない」、「プラス材料がなく、全体の売上も微減が続く」など、「減った」との声が多く聞かれた。品目別では、衣料品は、「徐々に活況となっている」との声が聞かれた一方で、「必要なものを必要な時に買う傾向になっている。消費性向は非常にシビアである」、「ビジネス関係の不調が続いている」など、各店でバラつきのある結果となったが、「コートが動いている」、「防寒雑貨の動きが良い」など、共通して冬物の動きが良いとの声が聞かれた。化粧品は「好調」との回答が多く、「新ブランドの投入効果が出ている」、「化粧品は堅い。こここのところずっと良い」との声が聞かれた。「食料品」は、全体では前期に比べれば「回復している」との回答が多かったが、生鮮三品に関しては、野菜の価格高騰などから、苦戦しているとの声が多く聞かれた。また、歳暮に関しては、「出足は悪くない」、「少し苦戦しているが、前年比103%と健闘している」など、比較的「好調」とする声が多かった。

【**諸経費**】人件費の抑制や広告紙面の見直しなどにより、「減った」との回答が多かったが、「人件費は抑制できているが、販促費が増加している」と、「ほとんど変わらない」と回答する店舗もあった。

【**採算性**】「採算は前年並みである」、「経費を削るところが少なく、採算は悪くなっている」、「売上げが減少しても利益は上がっている」と、回答に大きくバラつきがみられた。

【**今後の見通し**】各店とも「どちらともいえない」との回答となり、「衣料品メーカーや取引先を見ていても、景気が上向き感じがしない」、「足元の商況は悪くないが、全体の景況の方向としては当面若干悪い状況」、「アメリカの新大統領就任後の日本の産業への影響が懸念される」との声が聞かれた。

### (2) スーパー

【**業界の動向**】商業動態統計によると、県内スーパーの平成28年9月の販売額は、既存店ベースで前年同月比1.9%の減少となり、2か月連続で前年同月を下回った。また、全店ベースでも同1.9%の減少となった。

【**景況感**】「お金を使う用途がモノからサービスへ移り変わってきている」、「売れる商品が、質が良く価格が高いものから低価格帯のものへと変化してきている」などと、消費行動の変化を指摘する声があった。また、「日常では節約できるところは節約している感じがするが、買い渋るような感じではない」などと、多くの企業が「普通である」と回答した。しかし、「余計なものは買わないという、買い控えがみられる。また、高い商品が売れなくなっている」ことから「不況である」と回答した企業もあった。

【**売上げ**】「天候が良く客足にプラスの影響があった。また、農産物の相場が高かった」、「上層向けのスーパーから顧客が流れてきており、低価格帯ものがよく売れた」などと、「増えた」と回答した企業が多かった。さらに、「農産物の相場高騰に対しては、容量を減らして一点単価を下げるなど、売り方を工夫して対応した」、「競合店に対抗するため、出来立てにこだわった弁当を販売したら好評であった」などの声が聞かれた。さらに、総合スーパーでは、「天候が安定している中で気温が下がったので、衣料や住居・余暇関連商品が復調基調にある」との声が聞かれた。

【**諸費用**】すべての企業で「パート・アルバイトの時給を上げた」との声が聞かれたが、人件費については「従業員数の減少により減った」と回答した企業が多かった。また、諸費用全体については、「広告宣伝費を削減したので減った」との声が多く聞かれた。

【**採算性**】「経費の削減が貢献」、「人の使い方を工夫し、人件費を削減した」などと、「良くなった」と回答した企業が多かった。しかし、「経費は削減しようと努めているものの、売上増に伴い必要となる経費が増えた」と、「ほとんど変わらない」と回答した企業もあった。

【**今後の見通し**】すべての企業が「どちらともいえない」と回答したが、「現在の節約の傾向は続くだろうが、多少は良くなるだろう」、「良い方向に向かうとは思えず、何とも言えない」、「サービスが充実している大手企業に比べて、中小企業は後手に回りがちである」など、様

々な声が聞かれた。

### (3) 商店街

**【業界の動向】**平成28年11月の月例経済報告は、個人消費について、「総じてみれば底堅い動きとなっている。実質総雇用者所得は緩やかに増加している。また、消費者マインドは持ち直しの動きがみられる」と総括している。

**【景況感】**「良くなってきたがこれから冬に向けて下がっていくのではないか」「景気を上に持っていく動きがない」「地域が活性化する動きがない」「金融政策の行き詰まり感がある」といった理由から「不況まではいかないが好況ではない」または「不況である」といった声が聞かれた。

**【来街者】**地元客の動向について、「近くに競合店ができたことで、客足が落ちている」「年末に向け売り出しも企画されているが、チラシの効果はなくなってきている」と地元客の集客に苦勞している声が聞かれた。観光ルートの商店街では「天候も安定しておりハイキング客は増えている」「訪日外国人というより在日の外国人の来客が多い」との声が聞かれた。

**【個店の状況】**商店街の状況として、全般的に店舗が老朽化してきているとの声があった。また雇用について、若い人がおらず、新卒の定着率も悪いが、高齢者人材だけというわけにもいかない、と担い手の確保について厳しい状況が聞かれた。一方で、チェーン店やコンビニエンスストアが商店街に増え、従来型の小売店が減少したことにより、高齢者などの買物弱者が近所で生鮮食品を購入する場所が無くなってしまっているとの声が聞かれた。

**【商店街としての取組】**継続的な取組として、恒例となったクリスマスイベントで大型店と共同で駐車場を開放して中高生の吹奏楽演奏により地元客を集客したり、新たな取組として、商店街を車両通行止めにして内外のパン屋の出店によるパンフェスタを開催し広く集客したりと、様々な工夫について聞くことができた。また、商店街でカード決済をしやすくするために手数料の課題に取り組んだり、来街者に分かりやすく店舗が掲載してほしいような商店街の紹介パンフレットの作成を始めたりと、様々な取組が進められている。

**【今後の課題等】**商店街を担う人材（役員）の育成が課題であり、日常的に商店街を歩き回り、店の出入り状況を把握し、加盟を促せるような人材が必要、との意見があった。集客の課題について、インバウンドへの期待もあるが、まずは地元客に来てもらえるよう、特に高齢者の居場所として、また、日本人外国人問わず内外から来てもらえる商店街になるよう考えていく必要があるとの声も聞かれた。

**【今後の見通し】**「年間で1～2月は厳しい時期のため、来客は減ると見込んでいる。」など、先行きは良くない、低下気味、どちらともいえない、悪い方に向かうとの声が聞かれた。

## 3 情報サービス業

**【業界の動向】**特定サービス産業動態統計調査によると、情報サービス業の売上高は、直近の平成28年9月は前年同月比0.6%の増加となり、2か月連続で増加した。

**【景況感】**「普通である」と回答した企業が多かった。しかし、「経常利益が確保されているので、良い方の普通」、「どんよりしている。経済は回っているかもしれないが、晴れ晴れしていない」などと、企業により様々な声が聞かれた。また、「業界では仕事がたくさんある状態である」と、「好況である」と回答した企業もあった。

**【売上げ】**「取引先への派遣の仕事が新規で増えた」、「取引先のパソコンのハードやソフトの更新に伴い商品が売れ、増加した」など、「増えた」と回答した企業が多かった。一方で、「従業員数が減った状態が続いており、売上げも連動して減少」と「若干減少した」と回答した企業もあった。今後の見通しについては、「新規の仕事が決まっている」と「増える」と回答した企業、「今の状況から変化はない」と「ほとんど変わらない」と回答した企業、「今後の従業員の数次第である」と回答した企業など、様々であった。

**【受注単価】**「頻繁に変動があるものではない」など、全ての企業が「ほとんど変わらない」と回答した。

**【人件費】**「冬の賞与を支給した」と、「増えた」と回答した企業、「最低賃金の引上に伴い、数名のパート従業員の時給を上げたが、全体としてはほとんど変わらない」と回答した企業など、回答は様々であった。

**【採算性】**「仕事がたくさんあるので、人手が余ることがなくなった」、「新規採用社員が戦力化してきた」など、「良くなった」と回答した企業が多かった。「ほとんど変わらない」と回答した企業もあったが、「経費節減により、利益は少し増えている」とのことであった。

**【今後の見通し】**今後に対しては「良い話がないので、現状から変化はないだろう」、「米国の経済政策が日本にどのような影響を与えるかが不透明なので、どちらともいえない。不安がある状態」と、多くの企業が「どちらともいえない」と回答した。一方で、「現在の仕事がたくさんある状態が続き、良いままで推移するだろう」との声もあった。

## 4 建設業

**【業界の動向】** 埼玉県「建設総合統計（出来高ベース）（国土交通省）」は直近の平成28年9月で、前年同月を7.2%下回っている。

**【景況感】** 回答企業全てが「普通である」と回答したが、「好況とまでは行かないが、景況は特に悪くはない」、「下請けが忙しく、良くなっている感じがする。悪くはない」と、前向きな意見が聞かれた一方で、「良いという話よりも悪いという話の方が多い」との声も聞かれた。

**【受注高】** 「公共工事は低調だが、民間の動きが良い」、「平年並みの受注は確保できてい」との声が聞かれ、多くの企業が「ほとんど変わらない」と回答し、今後の見通しも「ほとんど変わらない」との回答が多かった。

**【受注価格】** 「安値販売の企業もおらず、価格帯は変わらない」、「無理に安い仕事を取らなくても良いこともあり、受注単価は維持できている」、「上がってはいないが維持はできている」など回答企業全てで「ほとんど変わらない」との回答となった。

**【資材価格】** 「材料関係の価格は大きくは動いていない」、「値上がりを懸念していた鉄筋の価格も変化していない」、「鋼材類などの資材価格に変化はない」と全ての企業で「ほとんど変わっていない」との回答となり、今後についても、回答企業全てで「ほとんど変わらない」との回答となった。

**【採算性】** 「受注が好調であり、収益性も維持できている」、「受注が平年並みに確保できており、受注単価も維持できていることから、採算も維持できている」など、採算性は問題ないとする回答が多かったが、「人が足りないため、高くても派遣などを使わなければならなくなる」と、人手不足による今後の採算の悪化を懸念する声も聞かれた。

**【設備投資】** 一部照明のLED化などの設備投資を行ったとの回答もあったが、多くの企業が、設備投資は「実施しなかった」と回答した。来期（1～3月期）についても「実施しない」との回答が多かった。

**【今後の見通し】** 「良くなってほしいと思うが、オリンピック需要などの好景気の波はまだ来ていない」、「様々な「ショック」が起きており、世の中の流れが分からない。良い方向に向かうとは言いづらい」、「目先の仕事は出ており、良くなってほしいと思うが、良い方向に向かうと言い切れるほどではない」との声が聞かれ、全ての企業が「どちらとも言えない」と回答した。